

公立大学法人宮崎公立大学
平成26年度業務実績に関する評価結果

平成27年8月

宮崎市公立大学法人評価委員会

目次

1	事業年度ごとの業務実績の評価方法	…	1
2	大項目別評価	…	2
1	第2 教育研究等の質の向上	…	2
2	第3 地域貢献、国際化	…	4
3	第4 業務運営の改善及び効率化	…	5
4	第5 財務内容の改善	…	6
5	第6 自己点検・評価及び情報公開・提供	…	7
6	第7 その他業務運営	…	8
3	平成26年度業務実績評価に係る項目別評価結果総括表	…	9
4	全体評価	…	10

1 事業年度ごとの業務実績の評価方法

「項目別評価（小項目別と大項目別あり）」及び「全体評価」により構成する。宮崎市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」）は、公立大学法人（以下「公立大」）の作成した実績報告書をもとに、公立大の意見を聴取しながら評価を行う。

(1) 小項目別評価（基礎資料）

年度計画の小項目記載事項ごとに、事業の進捗状況・実績について以下の4段階により評価を行う。公立大による自己評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を記載する。

また、特記事項等についても記載する。

Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を順調に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施できていない
Ⅰ	年度計画を実施していない

(2) 大項目別評価

(1)の結果を基礎とし、年度計画の大項目（*）ごとに、以下の5段階により、その進捗状況・実績について評価を行う。

なお、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

S	(秀)	特筆すべき進行状況にある（特に認める場合）
A	(優)	計画どおり（すべてⅢ～Ⅳ）
B	(良)	おおむね計画どおり（Ⅲ～Ⅳが9割以上）
C	(可)	やや遅れている（Ⅲ～Ⅳが9割未満）
D	(不可)	重大な改善事項がある（特に認める場合）

*大項目

教育研究等の質の向上／地域貢献、国際化／業務運営の改善及び効率化
／財務内容の改善／自己点検・評価及び情報公開・提供
／その他業務運営

(3) 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、公立大の業務全体の実績評価について、「記述式」により、年度計画の取組を総括する。

また、地域の高等教育機関として更に発展するために、大学の特色ある取組やさまざまな工夫について積極的に評価し、広く公表する。

なお、必要に応じて組織や業務の課題や改善点等も記述する。

2 大項目別評価

第2 教育研究等の質の向上

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B (良) おおむね計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数49項目に対し、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したものが9割以上となったことから、B評価(おおむね計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.1~49)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
49	9	38	2	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき点

【No. 4 : 情報リテラシー教育を拡充し、実施・検証】

- ・情報リテラシー教育をより充実させる為には、「データベース講習会」も、原則全員参加で実施した方がよいのではないかと。

【No. 14 : 利用者のニーズに沿った図書館サービスの推進】

- ・図書館利用やサービス向上に向けた様々な取組がなされており大いに評価できる。特に、「学生選書ツアー」の取組は、今後とも継続して年2~3回程度の取組を期待したい。

【No. 37 : ピア・サポート制度の導入の検討】

- ・ピア・サポートについては、「新入生歓迎会」だけでなく、年間を通した「課外活動支援」という意味からも、各サークル活動の部長・キャプテン等を対象とした研修会の実施も検討の余地があるのではないかと。

【No. 42 : 学生による就職相談会の開催】

- ・物理的、時間的に可能であれば、2年生当たりにも4年生の体験談を聞かせると、講義の受講態度や生活姿勢等にもプラス効果が見込めるのではないかと。

イ 遅れている点

【No. 28 : 「学生支援基本方針」に基づく項目ごとの支援内容の検討・策定】

- ・特に、経済的支援体制の充実等については、早急な策定を期待したい。

ウ その他の意見等

【No. 3 : SA 制度等を活用した新たな補習支援システムの導入の検討】

- ・夏季集中講義期間に、再履修の機会を設け単位未履修者が1桁に減少したことは大いに評価できる。

【No. 9 : 試験的な PACS の運用等】

- ・支援ツールとしての機能不足に対して、今後どのような対応を取る予定か。

【No. 11 : 学生による授業評価の実施等】

- ・第7回授業での「中間授業アンケート」の導入は、授業改善等の恩恵が、回答者自身にも還元される可能性が高いので大いに評価できる。

第3 地域貢献、国際化

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B (良) おおむね計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数15項目に対し、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したものが9割以上となったことから、B評価(おおむね計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.50~64)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
15	2	12	1	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

- ・特になし。

ウ その他の意見等

【No. 51：主催・共催・後援行事等を通じた、地域に有益な事業の展開】

- ・主催・共催事業が少なく、後援(名義後援)事業がやや多いのではないかと
いう印象を受けた。

第4 業務運営の改善及び効率化

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数28項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.65~92)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
28	0	28	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき点

【No. 68：事務局共有ファイルサーバの活用の促進等】

- ・外部情報通信ネットワーク（インターネットやEメール等）と校内ネットワークは完全に遮断して、サイバーセキュリティ対策を十分図っていただきたい。

イ 遅れている点

- ・特になし。

ウ その他の意見等

【No. 89：セルフチェックの実施によるハラスメントに対する意識の徹底】

- ・実施結果（集約したもの等）は、その後、どのように活用されているのか。

第5 財務内容の改善

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数4項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.93~96)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
4	0	4	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

- ・特になし。

ウ その他の意見等

【No. 96：寄附金募集の継続】

- ・開学20周年記念であったとはいえ、前年度比50倍以上の実績は大いに評価できる。

第6 自己点検・評価及び情報公開・提供

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数5項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.97~101)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
5	0	5	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき点

【No. 100：情報セキュリティの維持向上のための研修会】

- ・特に、教職員向け情報セキュリティ研修会の参加率は100%を目指すべきではないか。

イ 遅れている点

- ・特になし。

ウ その他の意見等

- ・特になし。

第7 その他業務運営

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数8項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.102~109)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
8	0	8	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき点

- ・特になし。

イ 遅れている点

【NO. 107 : 避難訓練や救命講習会の実施】

- ・事業継続計画 (BCP) を非常時のため作成しておく必要があるのではないか。

ウ その他の意見等

- ・特になし。

3 平成26年度業務実績評価に係る項目別評価結果総括表

対 象 区 分		平成26年度計画										
(大項目)		項目数	評価別内訳				評価別の構成割合(%)				計	平均値
(中項目)	報告No.		IV	III	II	I	IV	III	II	I		
(小項目)												
第2 教育研究等の質の向上に関する目標		49	9	38	2	0	18%	78%	4%	0%	154	3.14
1 教育に関する目標		22	6	16	0	0	27%	73%	0%	0%	72	3.27
(1) 教育内容、方法及び成果に関する目標	No. 1~9	9	1	8	0	0	11%	89%	0%	0%	28	3.11
(2) 教育支援体制に関する目標	No. 10~16	7	1	6	0	0	14%	86%	0%	0%	22	3.14
(3) 学生の確保に関する目標	No. 17~22	6	4	2	0	0	67%	33%	0%	0%	22	3.67
2 研究に関する目標	No. 23~27	5	2	3	0	0	40%	60%	0%	0%	17	3.40
3 学生支援に関する目標	No. 28~48	21	1	18	2	0	5%	86%	9%	0%	62	2.95
4 大学改革に関する目標	No. 49	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00
第3 地域貢献、国際化に関する目標		15	2	12	1	0	13%	80%	7%	0%	46	3.07
1 地域貢献に関する目標	No. 50~55	6	0	6	0	0	0%	100%	0%	0%	18	3.00
2 国際化に関する目標	No. 56~64	9	2	6	1	0	22%	67%	11%	0%	28	3.11
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標		28	0	28	0	0	0%	100%	0%	0%	84	3.00
1 組織運営の改善に関する目標	No. 65~70	6	0	6	0	0	0%	100%	0%	0%	18	3.00
2 人事の適正化に関する目標	No. 71~79	9	0	9	0	0	0%	100%	0%	0%	27	3.00
3 広報活動の充実に関する目標	No. 80~83	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
4 ハラスメント防止対策等に関する目標	No. 84~92	9	0	9	0	0	0%	100%	0%	0%	27	3.00
第5 財務内容の改善に関する目標		4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
1 経営の効率化に関する目標	No. 93~94	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
2 自己収入の増加に関する目標	No. 95~96	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
第6 自己点検・評価及び情報公開・提供に関する目標	No. 97~101	5	0	5	0	0	0%	100%	0%	0%	15	3.00
第7 その他業務運営に関する重要目標		8	0	8	0	0	0%	100%	0%	0%	24	3.00
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	No. 102~105	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
2 安全管理に関する目標	No. 106~109	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
合 計		109	11	95	3	0	10%	87%	3%	0%	335	3.07

平成26年度計画	
大項目別における評価	
評価IVⅢの割合	判定
96%	B

93%	B
------------	----------

100%	A
-------------	----------

100%	A
-------------	----------

100%	A
-------------	----------

100%	A
-------------	----------

4 全体評価

(1) 総評

公立大は、「高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学」という建学の理念のもと、教育研究や地域貢献の充実に積極的に取り組んできたところである。

今年度は、6年間に及ぶ第2期中期目標期間の2年目となる平成26年度の業務実績について、その内容を点検したところである。その結果、評価委員会としては、年度計画を十分に達成できなかった取組も一部に認められたが、全体的には、概ね計画を順調に実施できたものと評価している。

具体的には、第2期中期目標においては、6つの大項目が設定してあるが、そのうち、教育研究等の質の向上については、Ⅲ及びⅣ評価の合計の割合が90%以上を達成し、B（良）（おおむね計画どおり）の評価となった。

中項目ごとに見ると、教育に関するものでは、「推薦入試の選抜方法」について、専門業者による分析等を基に、学長をトップとした入試改革推進会議を昨年6月に設置し検討を進め、当面の入試改革として、推薦入試においてセンター試験を課す区分を平成29年度入学者選抜試験から新たに設けることとしたことや、「高校訪問」について、学長や学生部長による県内外の高校訪問の実施や、隣県である大分・熊本・鹿児島の高校訪問の実施など、前年度に増して重点的に時期及び地域を設定して行うとともに、県内外の高校からの大学訪問の受入れも、前年度と比較して回数、内容とも充実したことなどが高く評価できる。

また、学生支援に関するものでは、「担任教員制の導入」について、具体的に検討を行い、平成26年度後期から、3、4年生を対象として導入を実現し、学生担任制要綱において、毎年度「年間運用計画」を策定することとし、その中で、面談の内容や個人情報提供上の留意点について定めたことも高く評価している。

一方で、「学生支援基本方針に基づく支援」について、項目ごとの支援の具体的内容と担当部署の検討及び整理は行ったが、関係部会における検討までは至らなかったという理由から、Ⅱ（年度計画を十分には実施できていない）と評価した。

学生が、安全・安心な環境の中で、高い学習意欲を持って充実した学生生活を送るとともに、自立した社会人としての資質・能力を身につけるためには、学生支援が不可欠であると考えられることから、早期の策定を求めたい。

また、大学の国際化に向けた取組についても、なお一層進めていただくよう求めたい。

今後も、個性ある大学づくりに教職員が一体となって取り組み、地域に根ざし、地域に愛され、地域に開かれた大学として、一層の発展を期待する。

(2) 今後の課題

- ①学生支援基本方針に基づく支援については、充実した学生生活等のために不可欠であることから、早期の検討及び策定が求められる。
- ②学生による就職相談会については、対象を3年生から2年生にも広げることで、早い段階における進路の決定に役立てていただき、ひいては学生生活の充実等にもつなげていただきたい。
- ③留学時における修得単位の個別認定については、学生の国際交流活動を推進するため、引き続き内部での検討を行い、制度の確定を図っていただきたい。
- ④情報セキュリティ研修については、多発するネットトラブルを未然に防ぐため、研修会に参加する教職員及び学生の出席率の向上に努めていただきたい。